

今回は本田作業についてです。田植えは5月20～25日頃が最盛期となるよう、作付面積に応じた作業計画を立てましょう！

ー土づくりー

近年、県内や魚沼地域の一部でごま葉枯病が多発生しています。南魚沼地域ではまだ少発生ですが、十分な注意が必要になります。ごま葉枯病は、秋落ち田で発生しやすいためケイ酸や鉄を含む土づくり肥料を施肥し、予防しましょう。

品名	成分 (%)	標準施肥量 (10a)
魚沼ロマンアイアンスター	ケイ酸：12、リン酸：8、苦土：5、鉄：9.5、腐食酸：6	60kg
けい酸加里プレミア 34	ケイ酸：34、カリ：20、苦土：4、ホウ素・鉄：微量	40kg～60kg
ようりんケイカル 23 号	ケイ酸：26、リン酸：7、苦土：7	120～200kg
ソイルキーパー Fe	ケイ酸：13.5、鉄：19、苦土：1.5	100kg
ソイルキーパー	ケイ酸：26、カリ：4、苦土：4、腐食酸：4	40kg
スーパーシリカプレミアム	ケイ酸：30、苦土：2	60kg～100kg
農力アップ	ケイ酸：20、リン酸：2.5、苦土：1、鉄：12、マンガン：2、ホウ素：0.1	60～100kg

●地力の低い圃場には堆肥や有機物の施用を！

堆肥や鶏ふんなどの有機物を継続して施用すると、地力向上が図られ、栽培後期の窒素発現量が増加し、稲体活力維持や登熟向上が期待できます。

◎ 本田作業

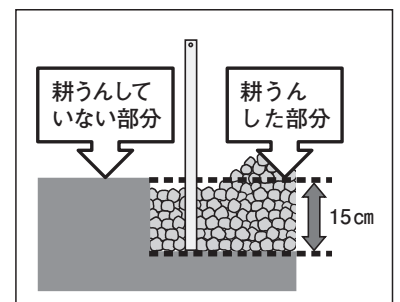
ー耕うんー

1. 圃場が乾いてから作業を行いましょう！

- ・乾土効果によって、地力窒素の発現が多くなります。
- ※湿った状態で行うと碎土性が悪くなります。

2. 耕深 15cm を目標に耕うんを行ってください！

- ・根域を広げ、高温やフェーンの影響を受けにくくなります。
(作土が浅いと根張りが浅く、肥効の持続力も短くなります。)
- ※ 15cm の確保が難しい圃場は、徐々に深くしていきましょう。



－代かきのポイント－

1. ゆっくり丁寧な作業で、できるだけ均平に仕上げてください！

- ・ゆっくり作業を行うことでワラが浮くのを防ぎます。
- ・田面を均平にすることで、早期活着、欠株の防止、除草剤の効果安定と薬害のリスクを軽減できます。

2. 荒代（荒かき）を行うことで効果を高めます！

- ・本代の前に荒代を行うことで、より均平にし水漏れを防ぎます。

3. 移植2～3日前の作業で雑草抑制！

- ・代かき後から雑草の発生が始まります。
- ・浮苗等の欠株を防ぐために、土が落ち着いてから（3日程度）移植を行いましょう。

－初期除草剤について－

代かき～移植までの期間が1週間以上空く場合に散布できます。

【主な初期除草剤】

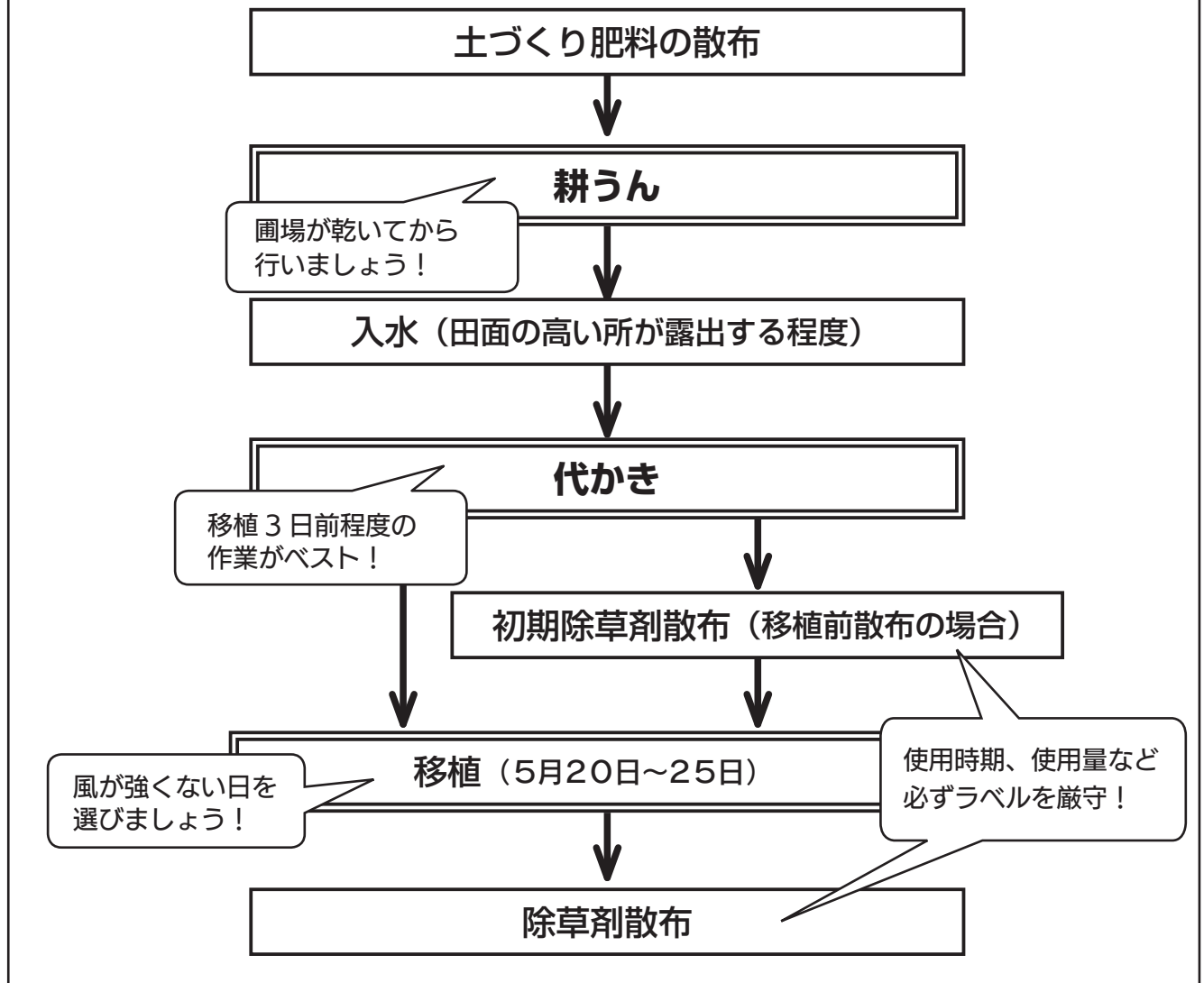
品名	10a当り使用量	使用時期
ユニハーフフロアブル	500ml	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき後～移植7日前 ・移植時
草笛フロアブル	300ml	
キルクサ 1 キロ粒剤	1kg	<ul style="list-style-type: none"> ・移植直後～ノビエ1葉期 (但し、移植後30日まで) ※キルクサは移植後15日まで
マーシェットジャンボ	500g	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき後～移植7日前 ・移植後1日～ノビエ1葉期 (移植後30日まで)
アークエース 1 キロ粒剤 ※1	1kg	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき後～移植7日前 ・移植時又は、移植直後～ノビエ1.5葉期(移植後30日まで)
マットタブジャンボ ※2	250g (5個)	<ul style="list-style-type: none"> ・代かき後～移植7日前 ・移植直後～ノビエ1葉期 (移植後30日まで)

- ・散布時は水深3～5cm程湛水し、水口と水尻を必ず止めてください。
 - ・原則、散布後7日間は入排水を行わないでください。
- ※1 アークエース粒剤には、モグトンの成分が含まれているため、好天が続いても藻や表層剥離が発生しにくくなります。
- ※2 10a当り500g(10個)施用も登録がありますが、半量処理が可能のため、低コストになります。

初期除草剤散布例

日付例	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	5月18日	5月19日	5月20日
移植前日数	7日前	6日前	5日前	4日前	3日前	2日前	1日前	移植当日
散布後日数	散布	1日間	2日間	3日間	4日間	5日間	6日間	
初期剤の散布	○	×	×	×	×	×	×	○

【本田作業の流れとポイント】



－いもち病防除－

コシヒカリBL：育苗箱施用剤による葉いもち1回防除

従来コシヒカリ、その多品種：育苗箱施用剤＋本田葉いもち防除

【主な箱施用剤】

品名	使用量	使用時期	使用方法	適用病害虫名
Dr. オリゼフェルテラ 粒剤	50g/ 1箱当り	緑化期～ 移植当日	育苗箱に 均一に 散布	いもち病・初期害虫・ イネアオムシ（フタオビコヤガ）等
Dr. オリゼプリンス 粒剤 6				いもち病・初期害虫・ ウンカ類・イナゴ類等

- ・葉が濡れていない状態で均一に散布します。
- ・茎葉に散布した薬剤がのっている場合は払い落としてください。
- ・床土が乾いている場合は、薬剤散布後に散水してから田植えを行いましょう。

※イナゴが気になる場合は、Dr. オリゼプリンス粒剤6を使用してください。

※有機米部会の特裁5割の方は、Dr. オリゼフェルテラ粒剤のみ使用可能です。

一基肥一

○基肥窒素成分の目安

- ・基肥＋穂肥の体系施肥の場合…基肥の窒素成分は3～4kg
- ・一発肥料の場合…窒素成分4.5～6kg

【主な基肥肥料】

肥料名	成分量 (%)			慣行栽培米 基準施用量	窒素含有量
	N	P	K		
有機 30 魚沼口マン側条専用粒状	12	15	12	30～40kg	3.6～4.8kg
有機 30 魚沼口マン 500 号	15	10	10	20～30kg	3.0～4.5kg
有機 30 魚沼口マンペースト S043	10	4	3	30～40kg	3.0～4.0kg
有機 30 魚沼口マン元肥一発	15	8	7	30～40kg	4.5～6.0kg
魚沼口マン有機専用	10	14	10	30～38kg	3.0～3.8kg
魚沼口マン有機一発 285	12	8	5	45～50kg	5.4～6.0kg
かがやき※1	14	14	14	20～30kg	2.8～4.2kg

- ・初めて一発肥料を施用する方は、例年の基肥＋穂肥の施肥体系から窒素成分マイナス1割の施用量を基準としましょう。
- ・※1のかがやきは、アグリフラッシュに代わる低コスト資材です。

早朝田植え指導会

- 日時 5月10日(水) 朝6:30～(30分程度の予定です)
- 場所 六日町カントリー (津久野下新田17)
大和カントリー (九日町4021-1)
- 内容 田植えのポイント 水稲除草剤使用ポイント など

携帯メール会員募集!!

無料(通信料は除く)でタイムリーな生育状況や緊急情報をメールで配信しています。

登録の仕方がわからない方は、携帯を持って普及指導課にお越しください。こちらで登録いたします!

登録は下記メールアドレスへ空メールを送信

beikoku@haisin.jp

または、右記QRコードをご利用ください。➔



予告

次回のおいしい米づくり情報は、田植え等について掲載する予定です。

ご不明な点等がございましたら JA 普及指導課(TEL777-3786)までお問い合わせください。